

法苑

御 山 森 泉 寺
 〒710-1012
 倉敷市真備町辻田二一六二

新聞法光は檀信徒の皆様が当山の活動をお知らせすると共に弘法大師の御教えを分かりやすい言葉でお伝えする目的で発行します。

あまね

普く一切に...

しかし、実際には「普く一切」といっても精々身近な家族、親族、知人等を思い浮かべるくらいではないでしょうか。仏さまの願いはこのように限られた者だけが対象となることはありません。

大切な意味は「普く一切」というところにあります。これは「過去、現在、未来の自分を含めた存在すべて」を指します。

つまり、自分とは遠く離れた無縁の存在であれ、動植物やこの地球、さらには宇宙全体という、時空を超えた果てしない所にまで仏さまの意識は及ぶことを表しているのです。

そして、回向文は仏さまの願いと共に「この功德を普く一切に廻らせることを願えば、自分を含めたすべてのものが仏の心と一体となるのですよ」

このようにすれば仏の悟りを得られるかという教えを明確に示しているのです。年末年始、ご先祖さまのお墓、お仏壇やお寺にお参りの際、自分たちのお願い事ばかりではなく、旧年中の感謝、新年の幸せを願う心を広く廻らせて頂けたらと思います。

『巳』は時刻でいうところの午前十時頃、活動エネルギーに満ちた時を意味することから、『巳』年は新たなスタートの年ともいわれます。良いお年をお迎えくださいますようお願い申し上げます。合掌



いよいよ年の瀬が迫ってまいりました。檀信徒各家の皆さま方におかれましても、新年に気持ち良く歳神様、仏さまをお迎えするためのご準備にお忙しくお過ごしのことと存じます。

さて、法事や日々のお勤め、お遍路等での読経の際、最後にお唱えする「回向文」は短い経ではありますが、仏さまの深い願いが込められています。

「願わくは この功德を以って 普く一切に及ぼし

我等と衆生と皆共に仏道を成ぜん」

とあるのは「今、御仏前にてお唱えしたお経の善行功德を仏に向かう私を含め、皆に行き渡らせ、一緒に悟りを得ることを願います」と意味を理解できます。

◎大晦日『除夜の鐘』...「家族皆さんでお参りください。福引があります。(先着順)甘酒のお接待もあります。」

初観音厄除け祈願・搬遣供養

平成二十五年一月十八日(金)午前八時

本堂で祈願の後、申し込まれたお方に厄除祈禱札を授与致します。

〔申込締切: 一月十日〕

また、本堂前にて古札を供養しお焚き上げ致します。

◎厄除けご希望の方は申込用紙にご記入の上、お寺にお申し込みください。

◎当日ご都合の悪い方は、厄除けご希望の日時をお早めにご予約ください。

◎ご家庭に古い御札、御守、お飾りなどございましたら、当日までにお寺の本堂前の御祓箱にお納めください。

◎燃えないものはご遠慮ください。

節分 星 祭 り 祈 禱

平成二十五年二月三日(日) 午前十時

本堂に北斗曼荼羅を懸け、供物壇を設けて申込者の御札を一体、一体、各願望を祈念し、修法致します。御札の準備もありますので、**一月十八日(初観音)**までに祈願料を添え、お申し込みください。



東日本大震災物故者追悼法要

平成二十五年二月二十五日(月)午後一時

寒さがまだ厳しい折、あの震災が起り、一万五千人以上の尊い命が失われ、二千人以上の方が今尚、行方不明となっています。残されたご遺族の中には大切な人の最後の顔すら見送ることも出来ず、苦しい思いを心に残したままお過ごしの方が沢山おられます。

来る、三月十一日には、はや三回忌を迎えます。当山では命日を前に副住職修行の同期生を招き、大悲殿に於いて中曲理趣三昧法会を勤修致し、大震災物故者の慰霊と被災地の方々の心の安穩を皆さまと共に祈りしたいと存じます。

日を追う毎に薄らぐ当時の記憶を今一度思い起こし、ご参拝、焼香くださいますよう、ご案内申し上げます。

彼岸会 水子供養並びに永代供養

平成二十五年三月二十日(水)午前九時

春のお彼岸の中日に本堂にて各家水子精霊の追善供養を勤修し、お勤めの後、供物を境内の水子地藏尊にお供えし、ご供養致します。当日ご参拝の方は駄菓子、ジュース等お持ちください。

また、昨年完成致しました墓地の永代供養塔御前にてご法楽をあげ、有縁無縁の御精霊をご供養致します。

涅槃図掛軸公開 二月中

お釈迦さま涅槃の日である二月十五日には当山にある江戸期の軸と新調した大涅槃図を懸けお祀りし、お勤め致します。

花祭り(仏生会)四月八日



当山ではお釈迦様の誕生日に本堂前に花御堂を出して時花で飾り、誕生仏をお祀りします。また当日お参りの方には甘茶の

お接待を致します。灌仏会(かんぶつえ)ともいってお釈迦さまが誕生の際に甘露の法雨が降ったとの故事により、甘茶を掛けて祝福します。境内の花々が一番色鮮やかな時期でもありますので、お誘い合わせの上お参りください。

主な行事予定

平成二十四年

十二月三十一日(月)除夜の鐘「福引き・接待」(午後十一時五十分～午前一時半)

平成二十五年

一月十八日(金)初観音厄除祈願(午前八時～)

搬遣供養(午前九時～) 総代会(午前十一時半～)

二月三日(日) 節分星祭り祈禱(午前十時～) 二月二十五日(月) 東日本大震災物故者三回忌法要(午後一時～)

三月二十日(木) 彼岸会水子供養(午前九時～) 永代供養(午前十時～)

四月八日(月) 花祭り「甘茶接待 終日」

四月十日(水)～十二日(金)西国巡拝

※都合により変更させていただくことがあります。

子ども練成会 七月二十七日(金)



今回は日帰りでの開催ということもあってか、募集定員を超える参加をいただきました。お勤め、掃除、瞑想、念珠作り、茶道体験など行いました。短い時間ではありましたが、家とは違ったお寺の雰囲気を感じてもらえたことと思います。



また、食事や指導をお手伝いくださいました方々に篤く御礼申し上げます。

施餓鬼法会勤修 八月十七日(金)



檀信徒各家ご先祖さまをはじめ、東日本大震災物故者諸精霊、阪神淡路大震災物故者、戦没諸英霊、有縁無縁三界万霊のご供養を致しました。



法要後、大阪の森本艸畔僧正の「葬儀のはなし」と題した講演は、都会における葬儀の実態や、インド、チベット仏教における死のとなえ方など興味深いお話で、皆さん真剣に耳を傾けていました。

第7回 観月会 十月二十七日(土)



十三夜の月見とは日本独自の風習で、一説には京都の仁和寺を開かれた宇多天皇がこの月を見て

「無双なり」(この世に二つと無いほど美しい)と賞されたことから始まったとされます。残念ながらこの日はお月さまが恥ずかしがって雲に隠れてしまいました。大正琴の演奏や大西てつじ氏のギター演奏を楽しんでいただきました。

また、展示会場には様々な力作がずらりと並び、その後の展示期間中も多くの足を運んでくださいました。

今年も作品の出品、お接待の品の準備や当日のお手伝いにご協力くださった方々に心から感謝申し上げます。

秋の西国三十三観音霊場並びに十八本山参拝

平成二十四年十一月七日(水)～九日(金)



今回は京都市内から亀岡、兵庫方面を参拝しました。紅葉は始まったばかりのようでしたが、天候にも恵まれ、観音さまをゆつくり参拝することができました。

本山の仁和寺では国宝の金堂内でお勤めをさせていただき、職員の方が丁寧に境内を案内してくださり、初めての参拝だった方々は大変喜ばれていました。

来春は四月十日から十二日の二泊三日でお参りします。多数のご参加をお待ちしています。



※参拝者の方々の体験や感想を募集しています。今後の参拝企画の参考とさせていただきますので、ご意見ご感想をお寄せください。

感謝 日頃より奉仕で境内および周辺、焼却場の掃除やお地藏さまへの生花をお供えくださるお方々、有難うございます。

宮島大聖院秋季大祭火渡り神事と西光禅寺 日帰り参拝

平成二十四年十一月十五日(木)



以前、好評だった火渡り神事参拝には是非また参加したいとお声をいただき、企画いたしましたところ、三十六名の方からお申込みがあり、久しぶりに大型バスでの参拝となりました。

午前中は小雨の降る中、西光禅寺へお参りし、ご住職様の法話を拝聴致しました。

昼からは秋の紅葉真っ只中の宮島へフェリィで渡り、大聖院へ参拝。火渡り神事へ参加致しました。初めての方は特に護摩の火がくすぶる上を歩くのは勇気が要ったようです。

それでも後日、参加者の方から「ずつと痛かった膝の痛みが無くなった」とか、「お参り前日まで体の調子がすぐれなかったのに、当日は不思議と元氣にお参りできておかげを頂いた」というお話しをお聞きし、およそ千二百年前にお大師さまが宮島弥山に勧請された三鬼大権現さまの有り難い靈験を改めて感じさせていただきました。また機会がありましたら企画、参拝致したいと存じます。



ひとくち法話(愛嬌)

愛嬌とは仏用語で、「あいぎょう」と読み、本来は「仏さまのように誰からも好かれ、尊敬されるような顔立ち」のことをいい、愛敬とも書きますが、「かわいらしい」という意味で使っている方も多いのではないのでしょうか？ 私事ですが先日、「一児の父となり、子育てに奮闘の日々を過ごしています。必然的に教育テレビやアニメのキャラクターなど目にする機会が増えてきました。

その中でもひと際、子どもを虜にしているのが「アンパンマン」です。子どもを授かる以前から同世代の友人に「アンパンマンは最強やで！」と耳にしていたのですが、その通りテレビやおもちや等でその顔を見るや否や声を上げて嬉しそうに笑い出します。単純な顔ながらもその優しい笑顔に惹かれるのでしょうか。

そして同じように喜ぶのは父親ではなく、母親の笑顔です。小さな子どもは辛い、悔しい、嬉しいと感情が高ぶるとき一番に母親を求めていると思います。母親のぬくもりに包まれ安心するのだと思いますが、母親の表情が優れないと子どもの機嫌も悪くなってしまう。

無財の七布施の中に和願施(わがんせ)があるように、アンパンマンのような愛嬌のある笑顔で子どもは勿論、人と接したいものですね。



般若心経の教えと功德 その一

「般若心経」といえば、皆さま方にとっても勤行、法事、お遍路、写経等でよく耳にされ、馴染み深いと思います。

しかし、わずか二百六十二文字という短いお経で、そんな教えが説かれているか、その内容までは難しく分からない方が殆どでしょう。

一言でいえば、お経自体が智慧で得られる『空』思想の理屈も越えて、直接悟りの世界へ飛び込む真言(呪文)です。

私たちは人生という重い荷物を背負い毎日を生きています。家族、地域、会社等様々な社会の中で悩み、苦しみもそれぞれ違います。全部捨てて逃げ出したいと、そうすれば気が楽になるだろうと思ったことがない人はいないのではないのでしょうか？

般若心経はその荷物の正体を明らかにしてくれるだけでなく、暗く沈んだ心を明るく照らし、生きる活力を生み出してくれる教えを沢山具えています。

少しずつその内容を読み解きながら紹介していきます。

『仏説』：：仏(お釈迦さま)が説いた

基本的にどんなお経もお釈迦さまが説いたとされています。しかしながら、その深い意味をとらえ、お釈迦さま「個人」の教えと解釈するのではなく、宇宙、自然すべてに含まれる絶対的な悟りを現す仏(大日如来)としてとらえたのが真言宗を聞かれたお大師さまです。

ありのままの自然の中に身を置いて行じることで、お釈迦さまも悟りを得ることができたのです。

写経会 毎月一回

当山では毎月第四日曜日の午前八時からその前の木曜日の午前九時半から大悲殿に於いて行っています。

内容は、説経・法話・写経(般若心経・祈願)で、所要時間は約一時間半です。正座が苦手な方には椅子席も用意致しております。

写経に興味のある方は先ず、お寺までお問い合わせの上、お気軽にご参加ください。

写経奉納料 一卷 壹千円

写経奉納表彰者(敬称略)

- 三百巻達成 中村侘子(三〇九巻)
- 〃 堀口次女(三〇〇巻)
- 一百巻達成 澁谷瑞恵(一〇〇巻)
- 右、平成二十四年十一月末まで
- ※百巻毎に記念品を贈呈しています。

写経絵の日程(一月～七月)

一月二十四日(木)	午前九時半
一月二十七日(日)	午前八時
二月二十一日(木)	午前九時半
二月二十四日(日)	午前八時
三月二十一日(木)	午前九時半
三月二十四日(日)	午前八時
四月二十五日(木)	午前九時半
四月二十八日(日)	午前八時
五月二十三日(木)	午前九時半
五月二十六日(日)	午前八時
六月二十日(木)	午前九時半
六月二十三日(日)	午前八時
七月二十五日(木)	午前九時半
七月二十八日(日)	午前八時

※都合により変更になることもあります。

観音会 毎月十八日 朝八時

本尊聖観世音菩薩さまの「縁日」に毎月行っています。世の中の音を観じたる菩薩で、音とは人々の心の声のことです。

苦しむ大勢の人を自分より先に安らかな心の境地に渡すことを願いと、般若心経の中にも登場する親しみやすい仏さまです。

朝のひと時、自然あふれるお寺に足を運んでその静寂を肌身で感じてみませんか？

皆さんとお勤めの後は、観音さまへ口頃の感謝を込めての下座行として境内の掃除をしていただいています。

たくさんの方にお参りいただきありがとうございます。お誘い併せの上、ご参拝くださいませ。

※八月は前日の施餓鬼会にてお勤めします。

身近な神仏 (その 2)

仁王・二王 (におう)



仏法、諸尊及びその聖域(仏さまを安置する空間である寺院)を守護する為に阿吽一対で表わされ、主にその入り口に当たる山門に祀られています。当山の山門にも板彫りの仁王さま(小西愛子様贈)を懸

けてお祀りしています。

また、大きな体を山をひとまたぎ出来るという故事から、健脚のご利益があることで知られています。傍らに大きな草履が奉納されている光景をよく目にするのはこのことからです。

◎毎月の観音会で生花のお供えやお勤め後の下座行(奉仕作業)をくださるお方々、いつも有難うございます。

心への贈り物 PART III

今回は、「置かれた場所で咲きなさい」という本を紹介いたします。

著者である渡辺和子さんは九歳の時に二・二六事件で父親を亡くされました。その後修道者となり、三十代半ばで岡山市のノートルダム清心女子大学の学長に生まれ、現在はノートルダム清心学園の理事長をされています。今日まで多くの苦難に直面してこられた渡辺さんですが、苦難を乗り越える度に「自分をなだめ、落ち着かせ、少しでも心を穏やかにする術」を習ったとおっしゃられています。「ここではその一部分をご紹介します。



「人生にポッカー開いた穴からこれまで見えなかつたものが見えてくる」

私たち一人ひとりの生活や心の中には、思いがけない穴がポッカー開くことがあります。それは病気であったり、大切な人の死であったり、他人とのもめごとなど、穴の大小、深さ、浅さも様々です。その穴を埋めることも大切かもしれませんが、穴が開くまで見えなかつたものを穴から見るといことも生き方として大切なことです。

渡辺さんの人生においても数え切れないほど多くの穴が開き、穴だらけの人生と言っても過言ではないのですが、それでも今日まで何とか生きることができ

たのは、多くの方々との出会い、いただいた信仰のおかげだと思っておられるそうです。

渡辺さんは五十歳の頃、「うつ病」を患われました。長年、修道生活を送ってきた自分が「うつ病」となったことで、自信を失い、死ぬことまで考えられました。その時に、お医者様から「この病気は信仰とは無関係です」と慰められたことで、「うつ病」を人生の穴として受け止め、そこから多くのことに気付かれたそうです。それは他人の優しさ、自分の傲慢さでした。その後の渡辺さんは以前より優しくなれました。なぜなら、他人の弱さが分かるようになったからです。そして、同じ病に苦しむ学生たち、卒業生たちに「穴から見えてくるものがあるのよ」と言えるようになったとおっしゃられています。

私たちは困難に直面すると、「どうして自分だけが苦しい目に遭うのか」と思うでしょう。そう思ってしまうのが、そんな時に少し立ち止まって「不幸な出来事や失敗から、本当に大切なことに気付くことがある」「この穴は何を自分に与え、教えてくれるのか」ということを考えてみるのが、困難を乗り越えていくことに繋がるのではないのでしょうか。

弘法大師の教えにも「如実知自心(にょじつちこじこ)」

とあるように、渡辺さんのこうした体験に基づいたお話しの中には、宗教は違っても相通する面もあり、自分を見つめ直すきっかけとなる内容だと思えますよ。

平成二十五年度年忌表

- 一周忌 平成二十四年亡
- 三回忌 平成二十三年亡
- 七回忌 平成十九年亡
- 十三回忌 平成十三年亡
- 二十二回忌 平成三年亡
- 二十五回忌 昭和六十四年亡
- 三十三回忌 昭和五十六年亡
- 三十七回忌 昭和五十二年亡
- 五十回忌 昭和三十九年亡
- 七十七回忌 昭和九年亡
- 百回忌 大正三年亡

右表をご参照の上、年忌法事をお申し込みください。なお、土日、祝日ご希望の方はお早めにご連絡ください。

その他、準備物等ご不明な点がございましたらお気軽にお尋ねください。

巳年生まれの守り本尊

おんさんまやさとばん

普賢菩薩 喝似嵯左筆

辰年生まれの守り本尊と同じで智慧の仏として知られ、尊名を普賢延命菩薩ともいい、蛇が古い皮を破つて脱皮し、計り知れない生命力で再生を続けるように、延命、長寿の利益がある。また、巳年は終結と再生の分岐点でと言われる。日の刻は一日の半ばにさしかかる時間(現在の午前十時頃)であることから、物事の盛りの頂を意味する。良きにつけ、悪しきにつけ物事や時代がひとりのピークを迎えて終わりを告げ、新たな始まりとなる気を抜けない年である。